小学校外国語活動だより　vol.26

H23.9.5　山口県教育庁義務教育課

２学期も始まり、体育的・文化的行事の準備等で大変忙しい日々が続きますが、各学校では、引き続き、コミュニケーション能力の素地を育成する外国語活動への組織的な取組が行われるようお願いいたします。

準備期間を経て、全面実施となった今、これまで以上に小学校外国語活動を充実させる必要がありますが、そのためには、クリアしなくてはならない様々な課題もあります。これまでも、実践上の課題として教員の指導力向上や、ＡＬＴとの打合せの時間の確保等があり、これらの課題の解決に努めてきました。

vol.25では、「中学校の外国語（英語）教育は？」という項目で、中学校の外国語科への理解を深めるための情報提供をしましたが、今回は、国立教育政策研究所　教育課程調査官　直山木綿子（なおやまゆうこ）先生が「大きな課題」としてとらえておられる**「小中連携」**について、考えてみたいと思います。

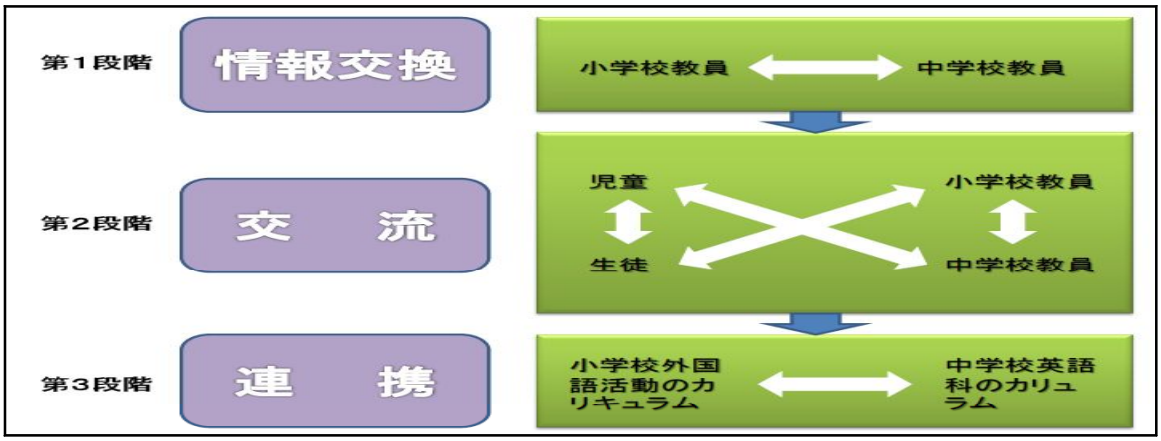
･･･だから小中連携は必要

外国語活動の成果は、中学校に入ってから発揮されるため、次のことが大切です。

① 中学校教員も小学校の外国語活動の趣旨を理解しておくこと
② 小学校教員は趣旨に応じた授業を行うこと
③ 小学校教員が中学校英語科教員に外国語活動での児童の体験を伝えること
④ 中学校英語科教員はその体験を生かした英語科授業を行うこと

１　段階的な取組

情報交換から交流へ、交流から連携へと段階を踏んで！



情報交換　**小中教員相互の心の距離が縮まります**

例）授業参観　同一中学校区内の教員合同研修

交　流　**互いの理解が深まります**

例）授業参観後の小中教員による検討・改善のための研究協議　小中教員のＴＴ　児童生徒の交流授業

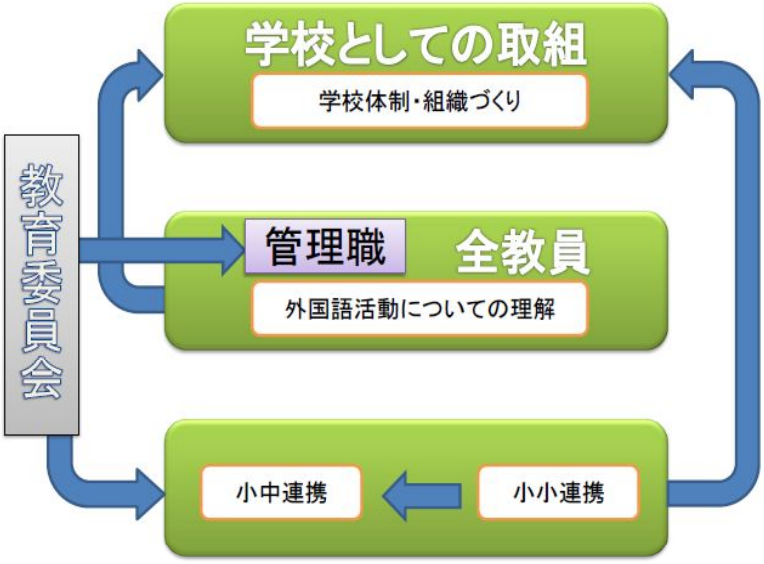
連　携　**内容の距離が縮まります**

「カリキュラムの連携」ととらえる
例）目標の一貫性　学習内容の系統性　指導の系統性

①　「情報交換」は、小中学校教員との**互いの取組について**の情報交換です。
②　「交流」は、同じ時と場所を共有して**あるものを創り出す**ことです。児童・生徒・小学校教員・中学校教員の４者がかかわります。
※　児童と生徒の交流では、生徒は児童にこれまでの学習を披露することがやる気につながり、児童は中学生の姿から中学校英語への憧れをもつ機会になります。
③　「連携」は、カリキュラムの連携のことで、最も重要なものは、**「指導法の継続性」**です。「小学校での外国語活動が中学校で役立っている」と、子どもが思うことが大切です。中学校教員が小学校で利用した教材や活動を中学校の授業で使ってみるのも１つの方法です。

２ 小小、小中の連携とそれぞれの役割

中学校の教員が、授業を行う上で、小学校の取組内容を理解しておくことは大切ですが、同一中学校区の小学校間で、取組内容に差があるということは、小中学校間のなめらかな接続を難しくします。
小小、小中の連携を進めるためのそれぞれの役割の遂行が大切です。



小中連携のポイント

○　小学校間の連携による取組内容に関する情報交換や教材の共有

○　小学校全体で取組を支える体制…**管理職の理解が必要**

○　管理職の理解促進のための教育委員会の働きかけ

○　小小または小中教員の交流や連携等を容易にする教育委員会の支援

お知らせ

☆　これまで、有効に活用した「英語ノート」の配布が平成２３年度をもって最後となることから、関係の皆様方は大変ご心配しておられたと思います。

◎　平成２４年度は以下のように、「新たな外国語活動教材」が作成・配布されることとなりました。

①　形態・配布方法
・児童用教材
　小学校５・６学年の児童に紙媒体で配布
・教師用指導書
　小学校５・６学年の学級担任に紙媒体で配布（児童用教材の赤刷版の形式）
・デジタル教材（ＤＶＤ）
　各小学校に配布
・単元計画、指導案、ワークシート
　インターネット上に掲載、もしくはＤＶＤに収録
②　特色
・基本的要素は「英語ノート」とほぼ同様
・「英語ノート」のよさを維持し、時間配分や、活動等を適宜改良

新たな名称、内容共にできあがりが楽しみです。